



市長記者発表資料  
平成 23 年 1 月 5 日  
生涯学習課

## 高岡市万葉歴史館の新館長について

高岡市万葉歴史館長 小野 寛 氏が、平成 23 年 3 月末をもって退任することになり、後任館長として 坂本 信幸 氏が就任することになりました。

採用者 (財)高岡市民文化振興事業団(理事長 高橋 正樹)

就任年月日 平成 23 年 4 月 1 日

新館長 さかもと のぶゆき  
坂本 信幸(奈良市在住)

<生年月日> 1947 年(昭和 22) 3 月(満 63 歳)高知県生まれ

<主な経歴>

1972 年(昭和 47) 3 月、同志社大学大学院文学研究科国文学専攻修士課程修了  
大谷女子大学助教授、奈良女子大学教授、奈良女子大学大学院教授等を経て、  
2010 年(平成 22) 3 月、奈良女子大学を定年退職

現在 奈良女子大学名誉教授

高岡市万葉歴史館協議会委員(2005 年～現在)

(財)奈良県万葉文化振興財団評議員

全国万葉協会顧問

『NHK 日めくり万葉集』の監修・担当及び出演

<主要著書>

『古代の歌と説話』(共編 1990 年)

『万葉事始』(共著 1995 年)

『セミナー万葉の歌人と作品』全 12 巻(共編 1999～2005 年)

『萬葉集 CD-ROM 版』(共編 2001 年)

『萬葉集総索引』(共編 2003 年)

『萬葉集電子総索引 CD-ROM』(共編 2009 年)等 多数

<主要所属学会>

萬葉学会 へんしゅう 編輯委員(2011 年 4 月より代表に就任予定)

上代文学会 理事、美夫君志会 みふくしかい 理事、萬葉語学文学研究会 編集委員

風土記学会 会員、古事記学会 会員 等

○ 坂本 信幸 氏のその他諸活動

- ・ 龍<sup>りゅう</sup>短歌会(岡山市)運営委員を務める歌人でもあり、歌集『雪に恋ふ』(1988年)がある。
- ・ 福岡県太宰府市や島根県<sup>こうつし</sup>江津市などをはじめとする全国の万葉愛好家たちとのネットワーク化に熱心であり、各万葉故地のイベント等にも積極的に参加されている。なお、高岡市の万葉集全20巻朗唱の会にも2002年の第13回から毎年参加、朗唱されている。
- ・ 全国万葉協会の顧問を務めるとともに、一般愛好家が自由に参加できる万葉の大和路を歩く会の講師や、愛好家だけでなく幅広く視聴されているNHKの「日めくり万葉集」の監修・担当、出演をするなど、万葉集の世界を広く知ってもらうための啓発・教育普及活動に尽力されている。



○ 小野 寛 館長の主な功績

- ・ 1990年(平成2)の高岡市万葉歴史館設立に関わり、開設以来、高岡市万葉歴史館運営協議会委員を務めてきた。
- ・ 2004年(平成16)4月から2011年(平成23)3月まで、7か年の万葉歴史館館長職を務めた。
- ・ 『万葉集』研究、とくに大伴家持の研究に従事するとともに、研究員らの指導育成にも熱心で、駒澤大学時代の教え子たちと『大伴家持大事典』を昨年11月に完成させた。
- ・ 館長講座「大伴家持とともに」をはじめとする館内講座の講師を積極的に務めるとともに、小・中・高校生対象の「小野寛の越中万葉教室」を毎年実施して、若年層への越中万葉教育普及に尽力された。また、「越中万葉かるた大会」にも毎年参加され、講演依頼も積極的に引き受けるなど、啓蒙・教育普及における功績は甚大である。
- ・ 四季短歌会(東京)の顧問として歌誌『四季』に「万葉集抄講読」、コスモス短歌会(東京)の歌誌『コスモス』に「万葉集「ことば」考」を連載され、短歌愛好家にも万葉集の魅力を伝えることに尽力されている。

今後の万葉歴史館の体制(参考)

現在の名誉館長大久間喜一郎、及び館長小野寛には、その高い学識をもって引き続き、高岡市万葉歴史館の指導を行っていただくよう、適切な処遇を検討している。